

「招待するときは」

2015年09月23日

ルカによる福音書 14章7節～14節。イエスは、招待を受けた客が上席を選ぶ様子に気づいて、彼らにたとえを話された。「婚宴に招待されたら、上席に着いてはならない。あなたよりも身分の高い人が招かれており、あなたやその人を招いた人が来て、『この方に席を譲ってください』と言うかもしれない。そのとき、あなたは恥をかって末席に着くことになる。招待を受けたら、むしろ末席に行って座りなさい。そうすると、あなたを招いた人が来て、『さあ、もっと上席に進んでください』と言うだろう。そのときは、同席の人みんなの前で面目を施すことになる。だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる。」また、イエスは招いてくれた人にも言われた。「昼食や夕食の会を催すときには、友人も、兄弟も、親類も、近所の金持ちも呼んではならない。その人たちも、あなたを招いてお返しをするかも知れないからである。宴会を催すときには、むしろ、貧しい人、体の不自由な人、足の不自由な人、目の見えない人を招きなさい。そうすれば、その人たちはお返しができないから、あなたは幸いだ。正しい者たちが復活するとき、あなたは報われる。」

人は誰でも、自分の小ささを嘆きつつも、人前では「大物」と見られたいものである。ファリサイ派の人々は律法を学び、人に教える中で、いつしか自分は「一角の者」と思うようになったのであろう。招かれた時、上席でふんぞり返って座るようになった。主イエスは彼らのこっけいな姿を見て、次のように言われた。招かれた時、上座に着くと、身分の高い人が来て、「この方に席を譲ってください」と言われ、恥をかく。末席に座っていると、「さあ、もっと上席に進んでください」と言われ、面目を施すことになる。どの社会でも、その人の力は座る位置で量られるのであろう。

ドイツの古い教会に行くと、国王、領主、貴族たちの座る席は特別席で、民衆の席は一階の一般席ときっちり区別されている。戦時中、牧師の説教が反国家的でないかを調べるために来ていた特高は、礼拝堂の最前列でふんぞり返って座っていたと聞く。ある長老派の教会では、長老たちが講壇を囲むように座っているらしい。男女が右、左に分かれていたことはある。現在の日本の教会では区別、差別はない。ただ礼拝堂の前の座席から座るように勧めるが、後ろから座る人が多い。クリスチャンは上記の主イエスの言葉を信じ、前に行かないのであろうか。お蔭で後から来た人は身を低くして、前に進まなければならない。初めて教会に来た人は、後ろの座席に座る。いざという時、逃げ出す用意のためである。彼らに配慮すべきであるが、前から座った方が円滑に進むことは確かである。

主イエスは「だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる」と言われる。マルコ福音書 10章43節b、44節で「あなたがたの中で偉くなりたい者は、皆に仕える者になり、いちばん上になりたい者は、すべての人の僕になりなさい」と書かれている。そして、招く時は、お返ししてくれるような人は招かず、お返しができない貧しい人、体の不自由な人、足の不自由な人、目の見えない人を招きなさい。そうすれば、正しい者たちが復活する時、あなたは報われる幸いを得ると言われる。低みに立ち続けた主イエスの真意である。パウロはローマ書 12章16節で「互いに思いを一つにし、高ぶらず、身分の低い人々と交わりなさい。自分を賢い者とうぬぼれてはなりません」と書いている。主イエスやパウロの勧めに応えることは「大物ぶりたい」私たちには並大抵ではない。